

# 2050年に向けて 「共生」について、改めて考える。 ～「幸せが実感できる共生のまち」への道のり～

## 共生の背景 多様な生き方や暮らし方を大切にするために

個人の生き方や暮らし方が多様になる一方、社会の仕組みとして、人口も経済も成長を続ける時代の考え方(※)のまま「追いついていない」状況があります。

※生産性や効率性を重視し、多様性が置き去りにされがちな考え方。

多様である=自分とは違う考えの人がたくさんいる。



違いがあるからこそ…

- 他者を理解しようとする
- 新しい価値を生み出せる
- さまざまな角度から物事が考えられる



多様な生き方や暮らし方を一人ひとりが社会の中で実現していくためには、「違いがある」ことによる良い面と悪い面とが両方あることをみなさんがしっかり認識した上で、「共生」という考え方を大切にする必要があります。

違いがあるからこそ…

- 違う意見を排除しようとする
- 自分が良ければいいと考える
- 同調圧力がはたらく



## 市の共生ビジョン まちづくりのキーワード

- 2012年度からまちづくりの基本理念として、「つながり」「あんしん」「みどり」という3つのフラッグを掲げています。
- 2019年度からの第6次長久手市総合計画(ながくて未来図)で、市が目指す将来像として、「**幸せが実感できる共生のまち長久手**」を掲げ、まち全体で「共生」にチャレンジする決意を示しています。
- 「つながり」「あんしん」「みどり」を「共生」という視点で捉えると次のように考えることができます。

つながり

一人ひとりに役割と居場所があるまち  
= 多様な人が**生きる**

あんしん

助けがなかったら生きていけない人は全力で守る  
= 多様な人が**生きられる**

みどり

ふるさとの風景を子どもたちに  
= 多様性を**育む**



## 市職員共生アンケート 「共生のまち」に向けて大切なことは

「共生」と聞いてイメージするものや、理想とするあり方については、人それぞれ異なります。

「共生のまち」を目指すにあたり、「大切にしたいこと」を改めて整理するため、11月に職員アンケートを行いました。

職員には、職務としてではなく、一個人の立場で、共生についてどう考えるか、答えてもらいました。その結果を次ページ以降にまとめました。

### アンケート項目

#### テーマ(主題)

「共生」と聞いて、誰・何との共生が思い浮かぶか

#### エピソード(現状)

あなた視点での共生の現状を、経験を踏まえつつ記述

#### ビジョン(理想)

幸せな共生の姿はどのような状態かを記述

#### ワンアクション(着手点)

現状を理想に近づけるためのファーストステップとして考えられることを記述



# アンケート結果の概要

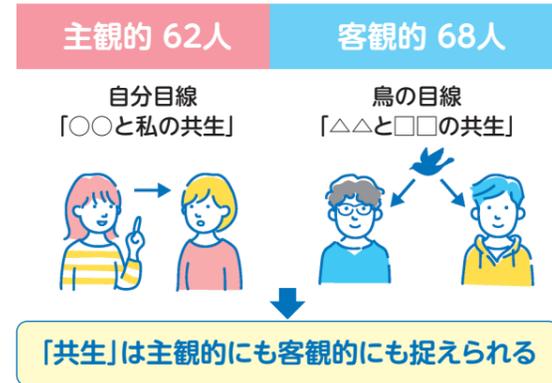
## テーマの種類

- 「マイノリティとマジョリティの共生」
- 「自然と私との共生」
- 「お隣のお子さんと息子との共生」
- 「他者と私の共生」
- 「地域と私との共生」
- 「心が辛い人と私との共生」
- 「支える人と支えられる人の共生」
- 「障がいを持つ我が子とそのまわりの方々と共生」
- 「ご近所のおばあさんと私との共生」
- 「苦手な人と私との共生」
- 「旧住民と新住民との共生」
- 「外国人とわたしとの共生」
- 「視覚言語と音声言語の共生」
- 「個性と個性の共生」
- 「私と家族の共生」
- 「考えが違う人との共生」
- 「職場の人と私との共生」

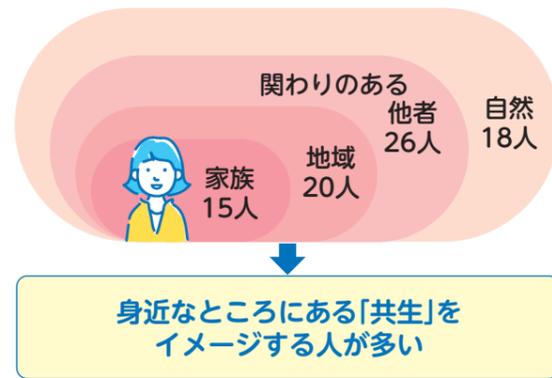
…など、多様な共生のテーマが挙がりました。  
「共生」と聞いて、それぞれ思い描くものは違います。

## テーマの分類

主観的？客観的？



## 「共生」のスケール感



## ワンアクションの内容TOP10

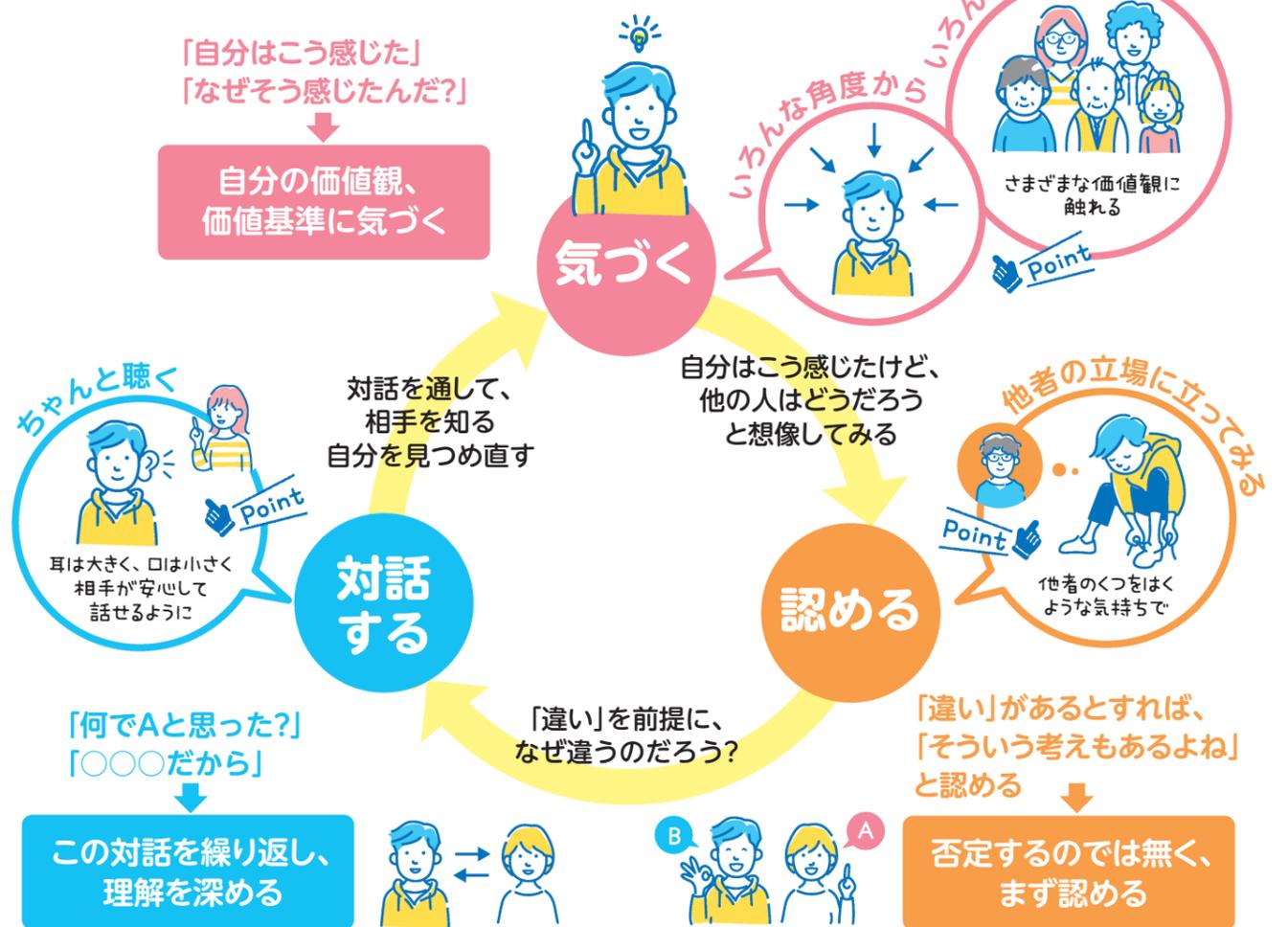


どんなものとの共生を考える上でも、重要そうな内容

エピソードなど、アンケート回答の詳細は、市HPからご覧いただけます。



# アンケートなどから見えてきた、「共生のまち」に向けて大切にしたいこと



- 気づく** いきなり正解を探すのではなく、まずは「自分はこう感じた」と自分の価値観、価値基準に気づく。
  - 認める** その上で、誰かとの違いがあれば「そういう考えもあるよね」と認める。
  - 対話する** そして、なぜ私とあなたは違うのか、そのズレを確認するために対話する。
- このサイクルによって、相手を知り、自分を見つめ直すことにつながり、共生しやすくなるのではないのでしょうか。「共生のまち」とは、こうした行動を絶え間なく繰り返していきやすいまちのことかもしれません。みなさんも身近なところから「共生」について考え、まわりの人と話し合ってみませんか。

「私はこう考える」「読んでこう感じた」など、あなたの声をぜひお寄せください。

